

性感染症に関する特定感染症予防指針の推進に関する研究

(平成18～20年度厚労省科学研究補助金、新興・再興感染症研究事業)

主任研究者：小野寺昭一 東京慈恵会医科大学感染制御部

分担研究者

川名 尚 : 帝京大学産婦人科

本田まりこ : 東京慈恵会医科大学皮膚科

松本哲朗 : 産業医科大学泌尿器科

新村真人 : 東京慈恵会医科大学

塚本泰司 : 札幌医科大学泌尿器科

飯沼雅朗 : 日本医師会常任理事

岡部信彦 : 国立感染症研究所感染症情報センター

大日康史 : 同上

松田静治 : (財)性の健康医学財団

研究の要約

1. 検査法の開発、治療法に関する研究

- 性器ヘルペス、尖圭コンジローマの迅速診断法の開発
- 咽頭の淋菌感染に対する診断法、治療法の開発

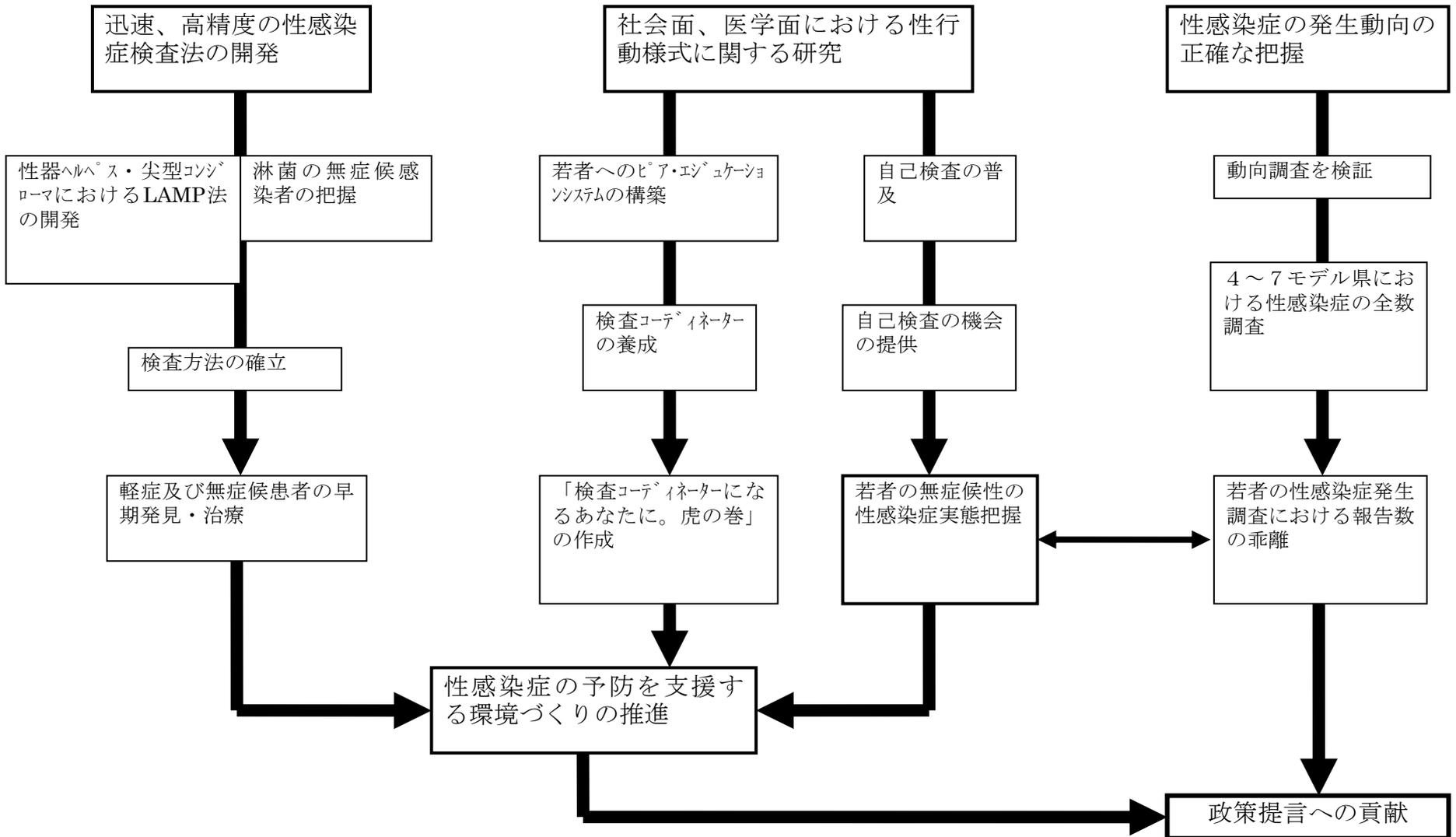
2. 性感染症の発生動向に関する疫学研究

- 性感染症定点医療機関の選定方策に関する研究
- 地域を限定した性感染症の全数調査

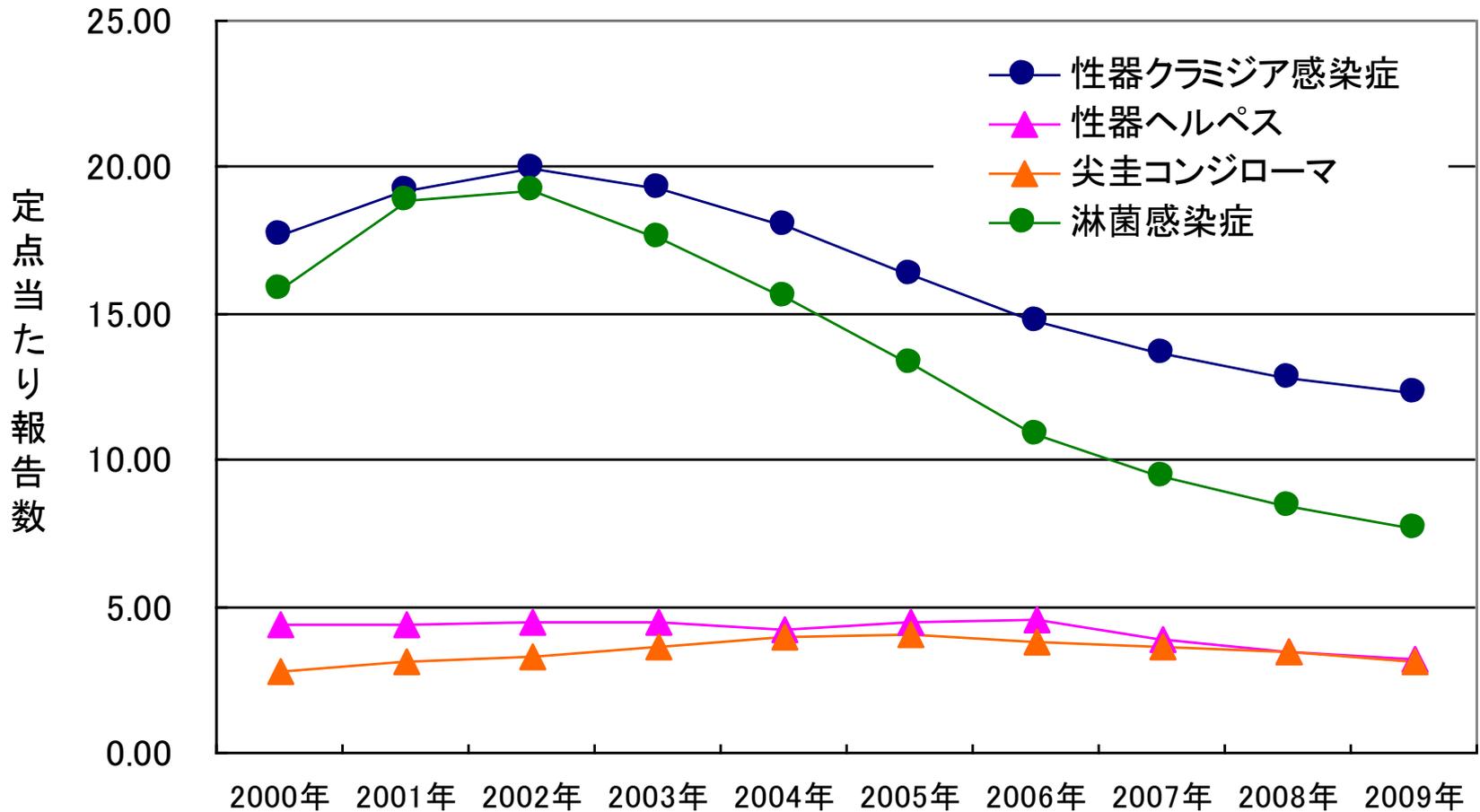
3. 社会面と医学面における性の行動様式等に関する研究

- 若者を対象とした、検体の自己採取と郵送による性感染症検査の普及に関する試行的研究
- 性感染症の無症状病原体保有者の推移に関する研究

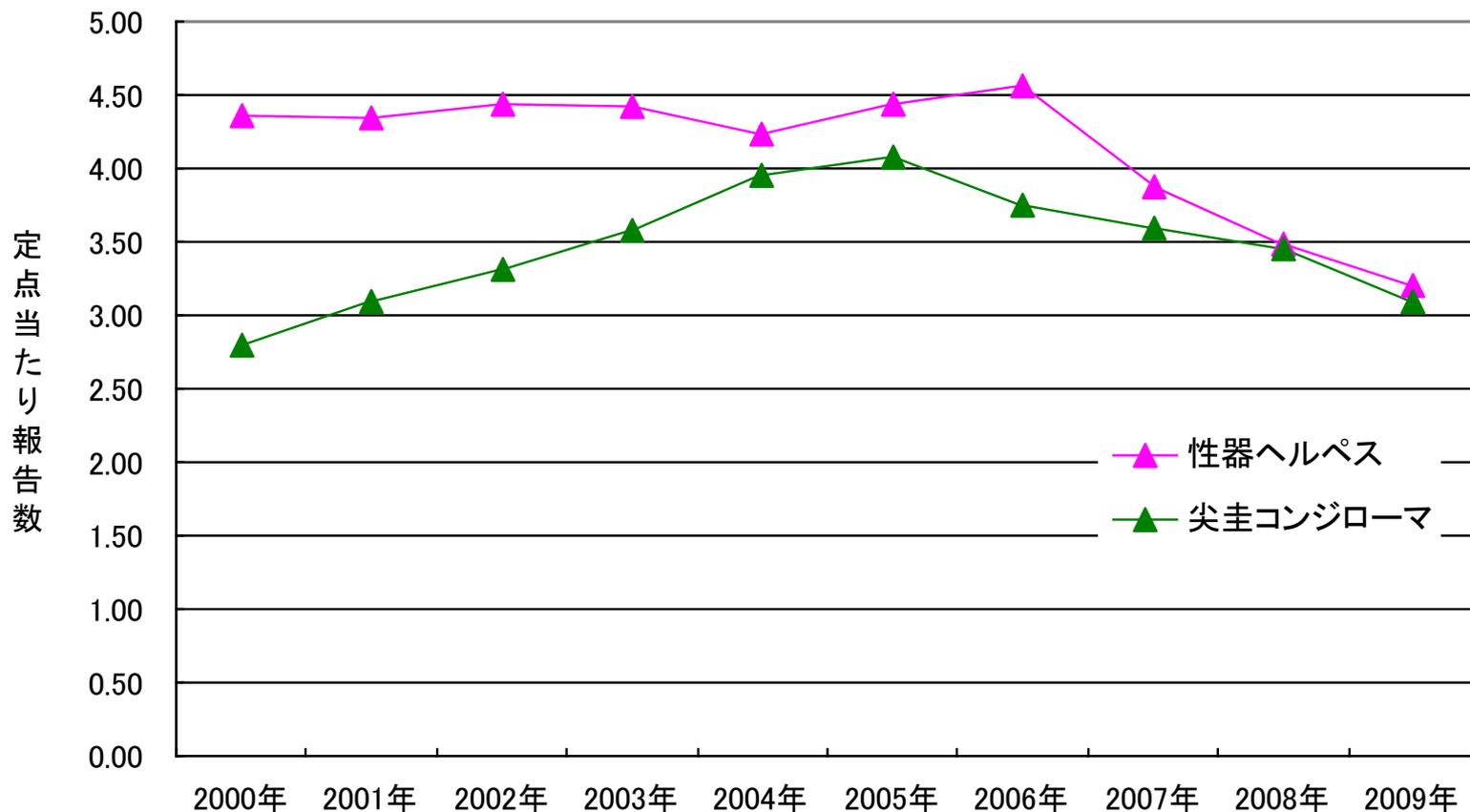
研究成果の概要



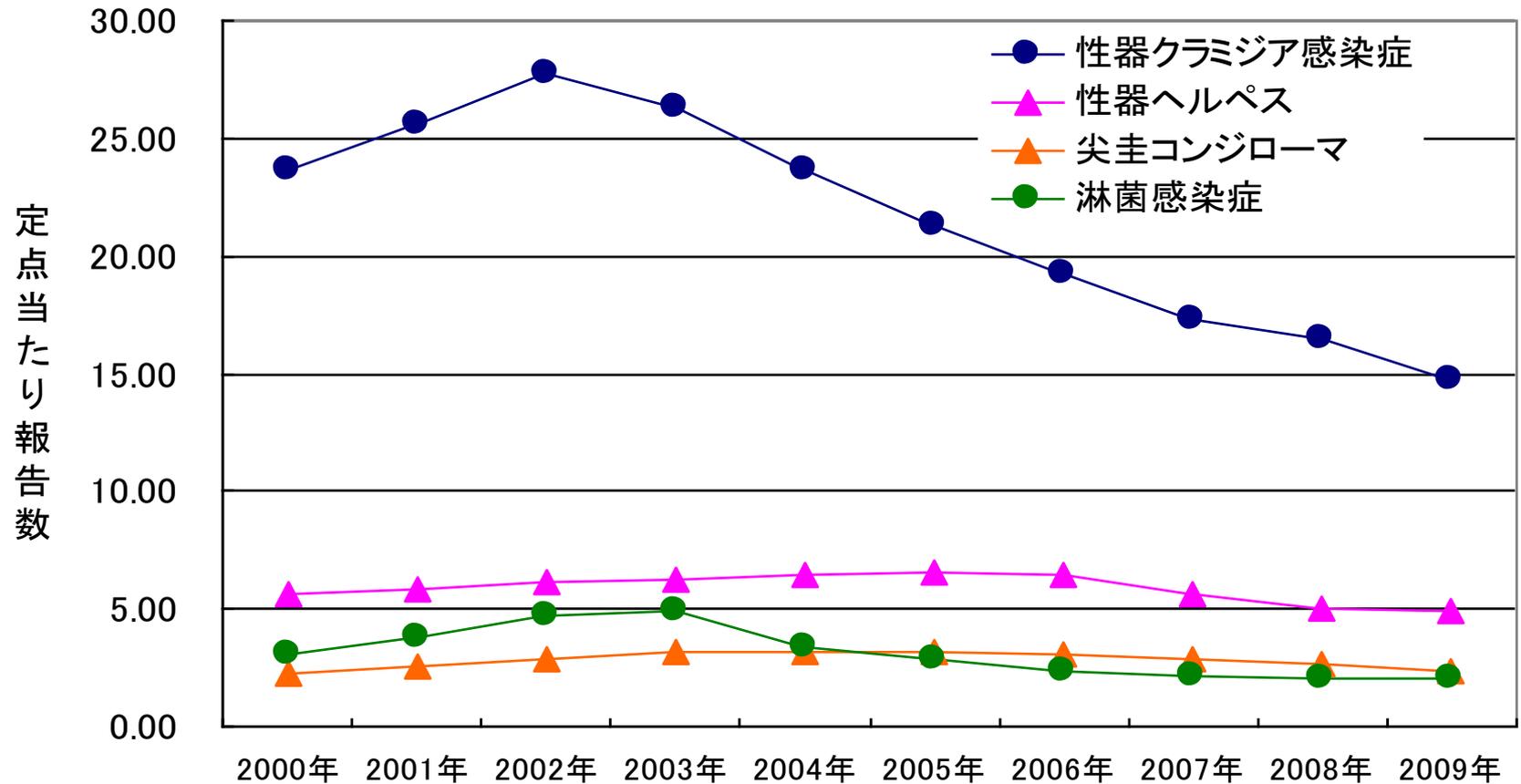
定点把握4性感染 定点当たり報告数年次推移 2000～2009（男性）



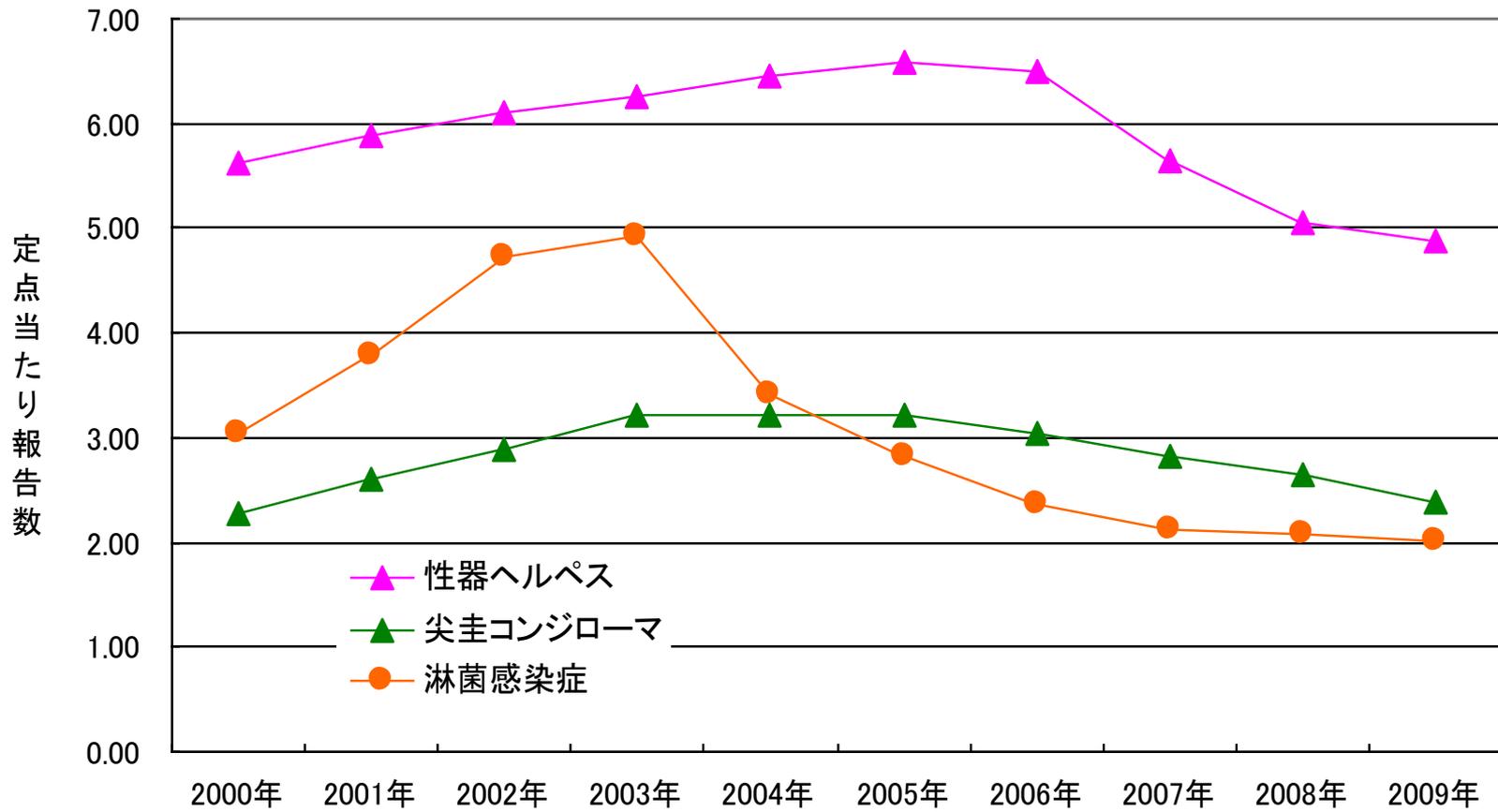
定点把握4性感染 定点当たり報告数年次推移 2000～2009（男性）



定点把握4性感染 定点当たり報告数年次推移 2000～2009（女性）

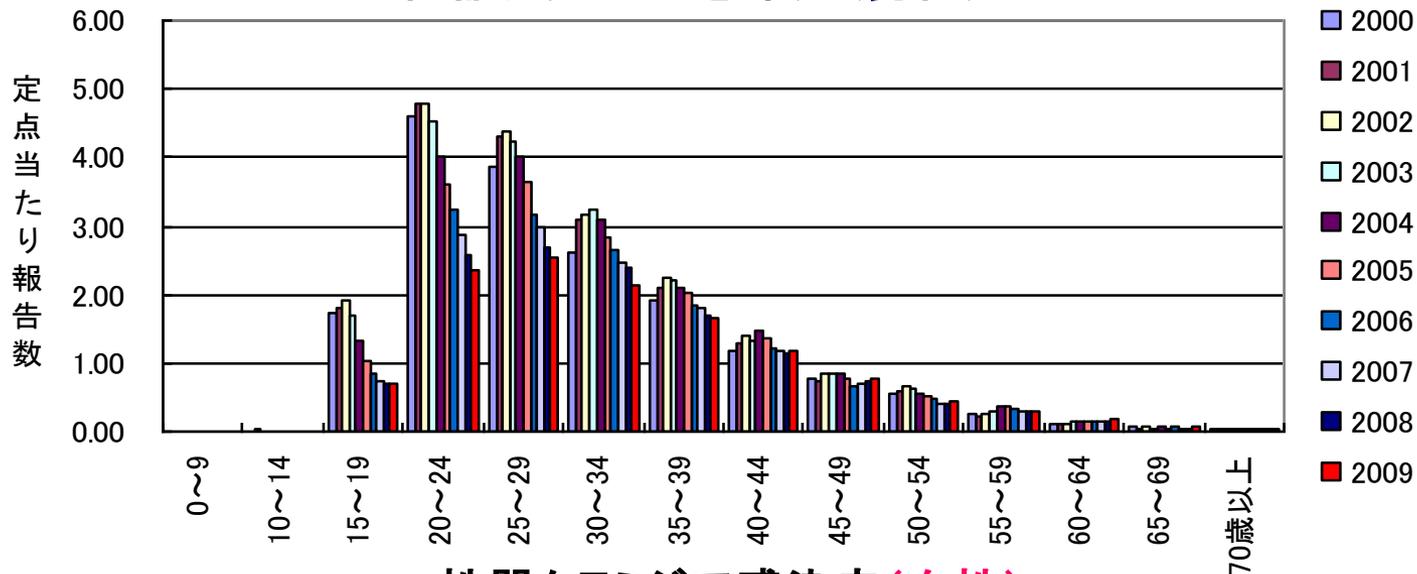


定点把握4性感染 定点当たり報告数年次推移 2000～2009（女性）

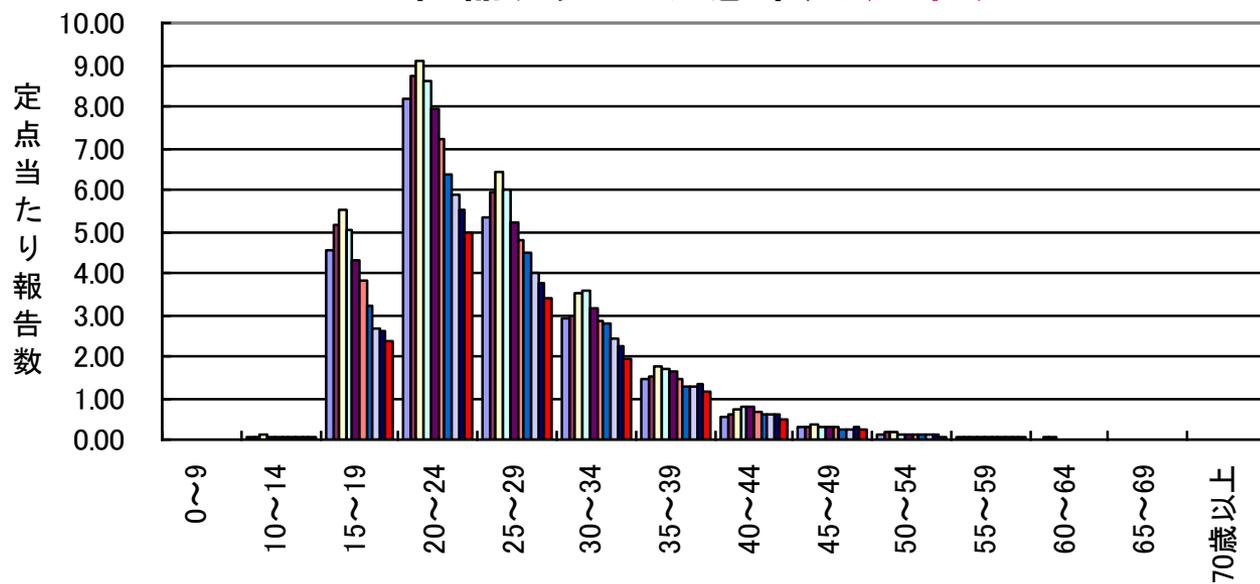


年次別/年齢群別定点当たり報告数

性器クラミジア感染症(男性)

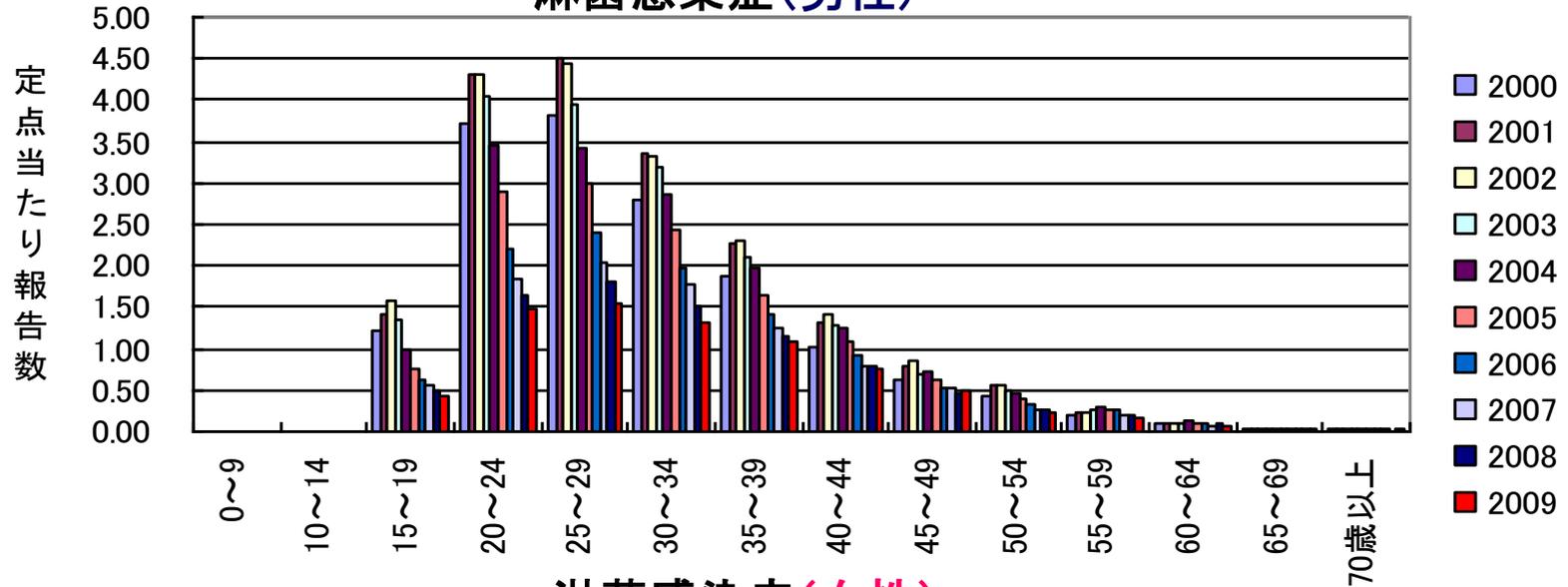


性器クラミジア感染症(女性)

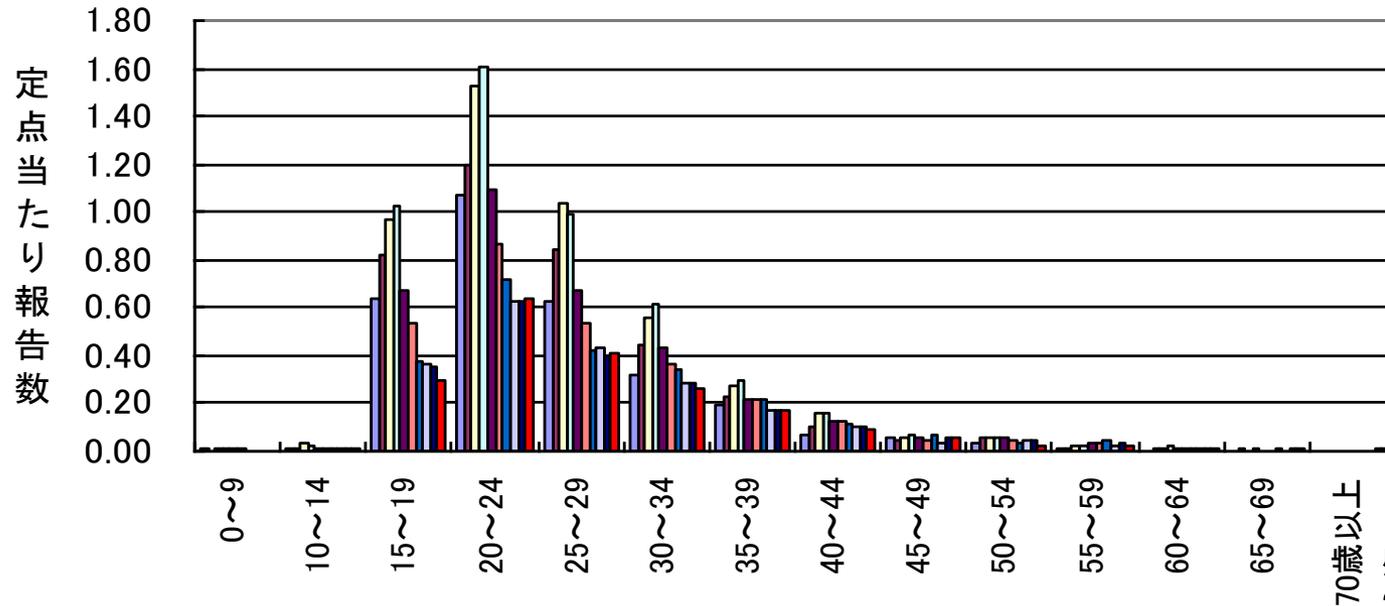


年次別/年齢群別患者定点当たり報告数

淋菌感染症(男性)

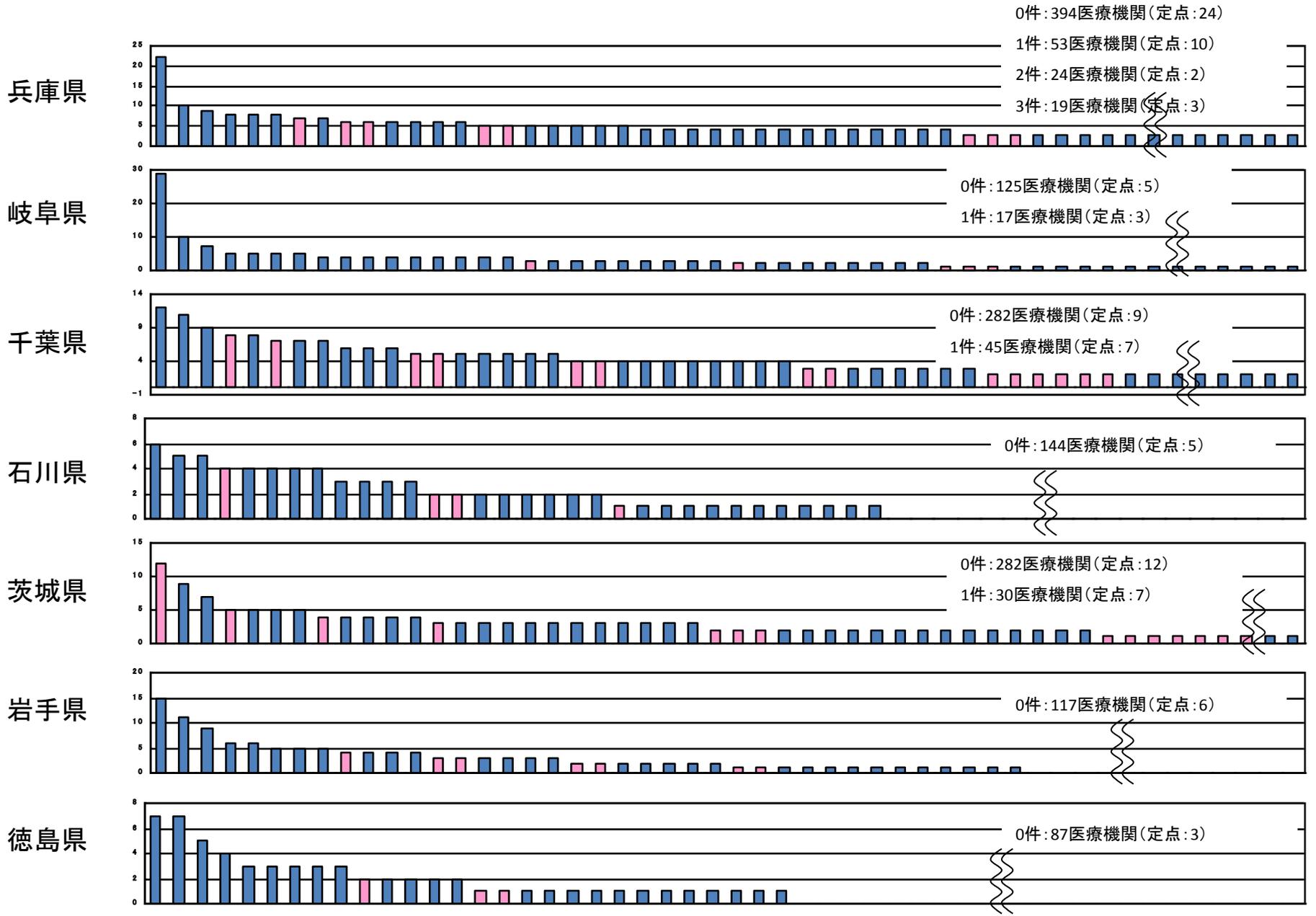


淋菌感染症(女性)



性器クラミジア感染症(発症者) 2008年報告件数

定点医療機関

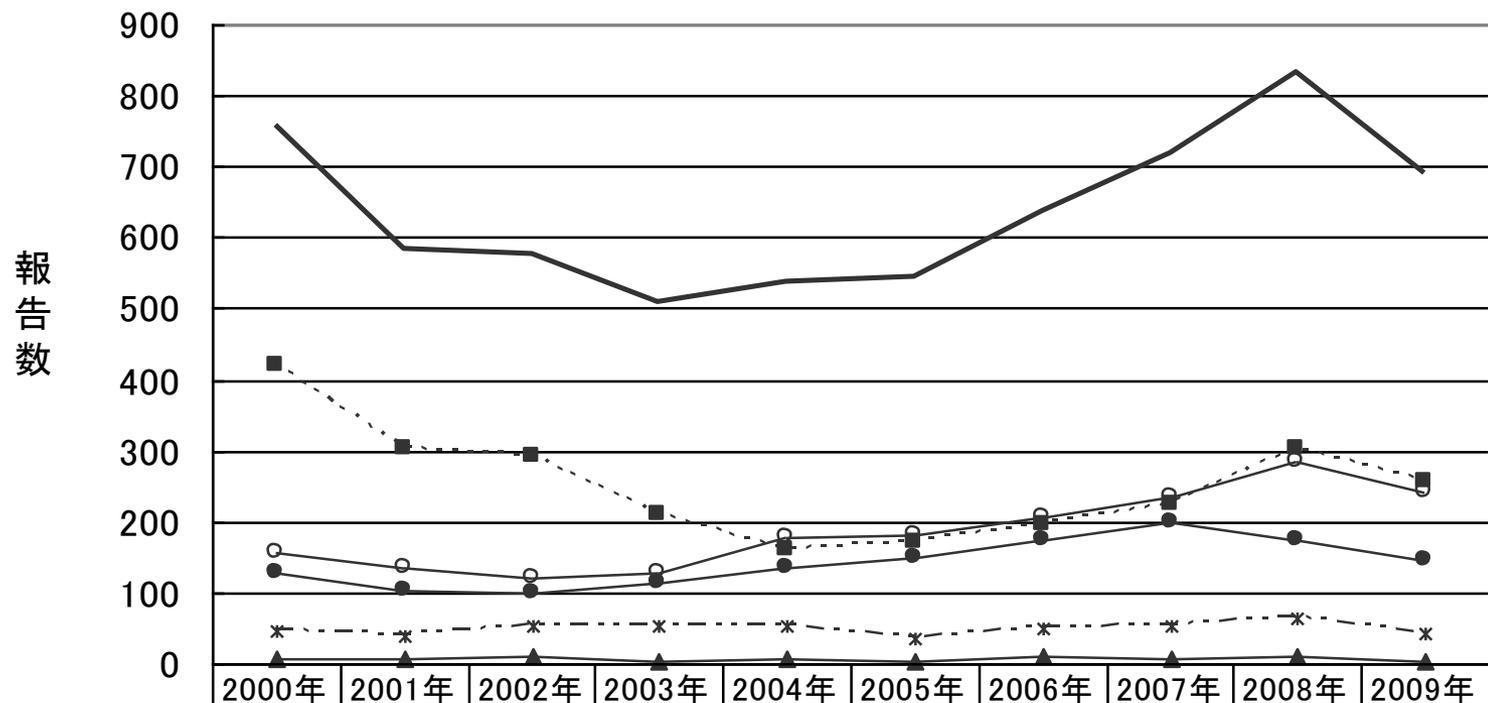


全数把握性感染症

梅毒

病期別梅毒患者報告数の年次推移

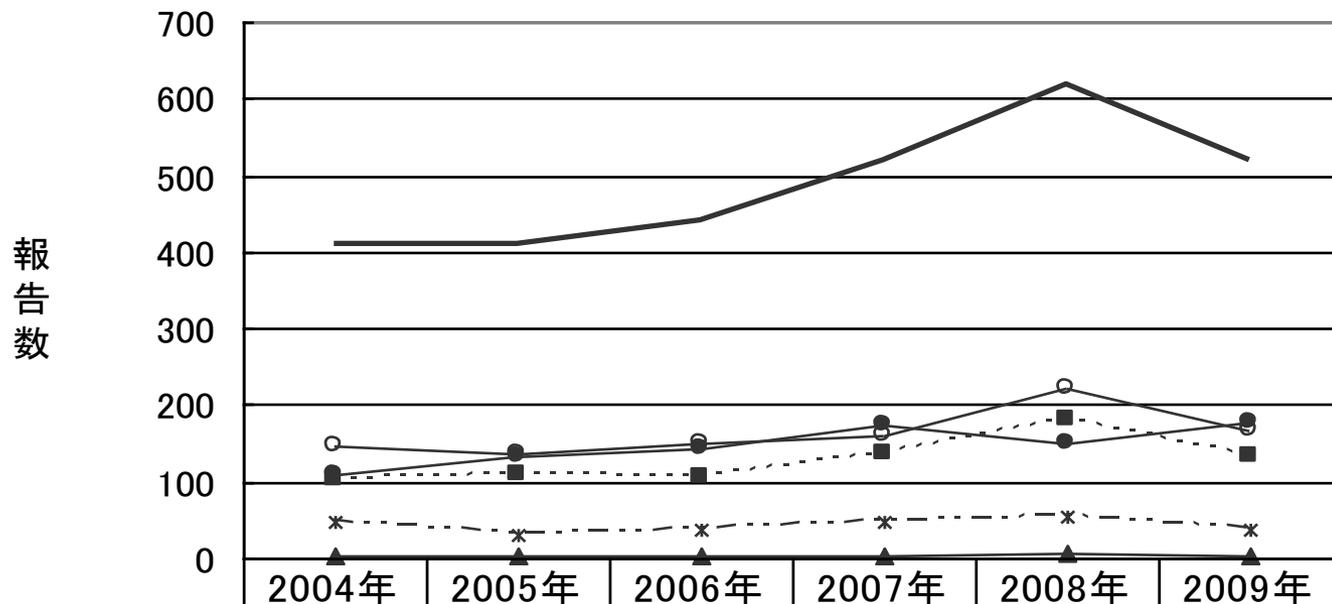
2000～2009年



	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
総報告数	759	585	575	509	536	543	637	718	833	691
無症候	420	301	293	209	160	172	195	224	302	256
早期顕症Ⅰ期	129	104	99	114	136	151	175	198	173	146
早期顕症Ⅱ期	157	134	121	127	179	180	205	234	284	241
晩期顕症	45	40	53	54	54	37	50	55	65	43
先天梅毒	8	6	9	5	7	3	12	7	9	5

病期別梅毒患者報告数の年次推移

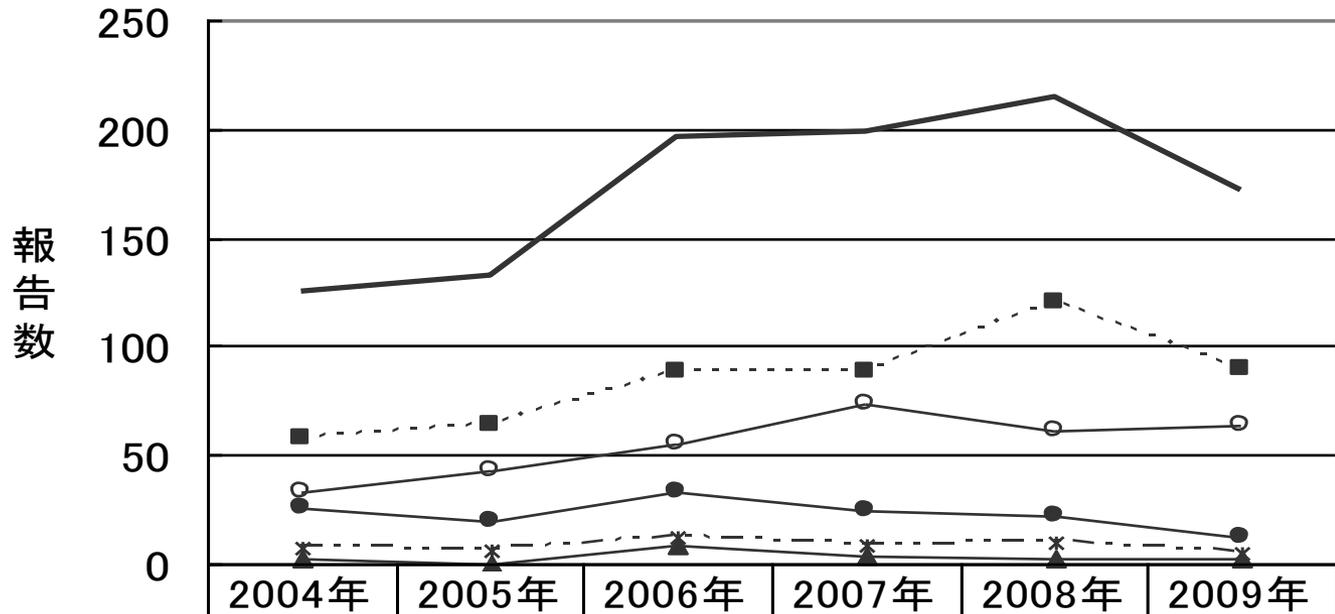
2000～2009年(男性)



報告数	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
総報告数	410	411	441	520	618	519
無症候	102	108	107	136	182	134
早期顕症Ⅰ期	110	132	142	173	151	177
早期顕症Ⅱ期	146	137	150	161	223	167
晩期顕症	47	31	38	47	55	38
先天梅毒	5	3	4	3	7	3

病期別梅毒患者報告数の年次推移

2000～2008年(女性)

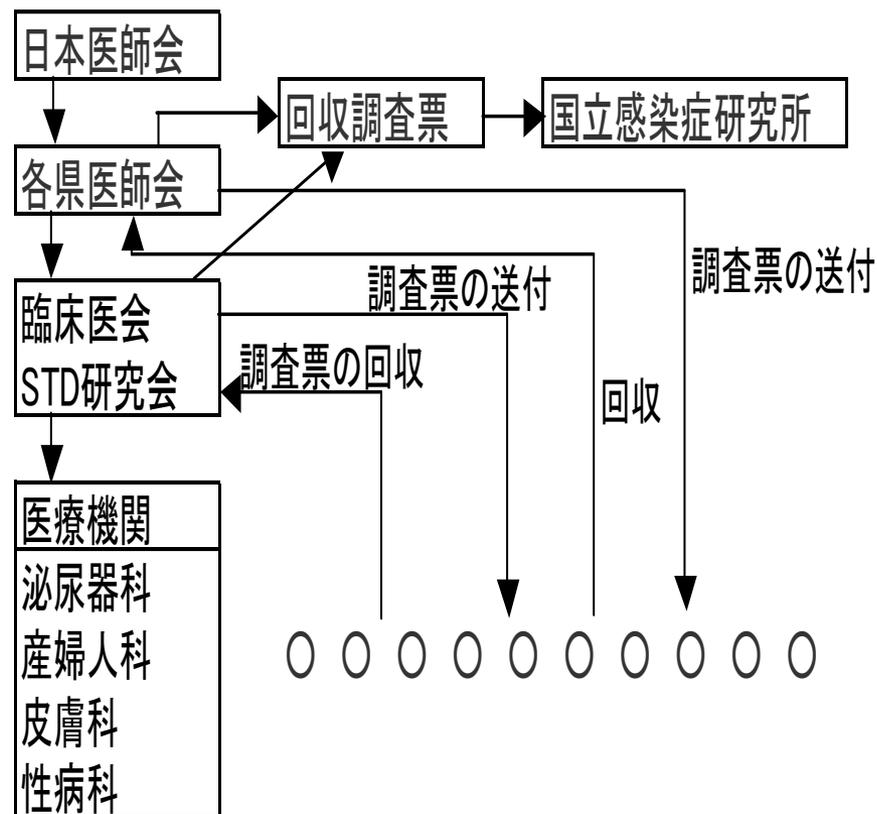
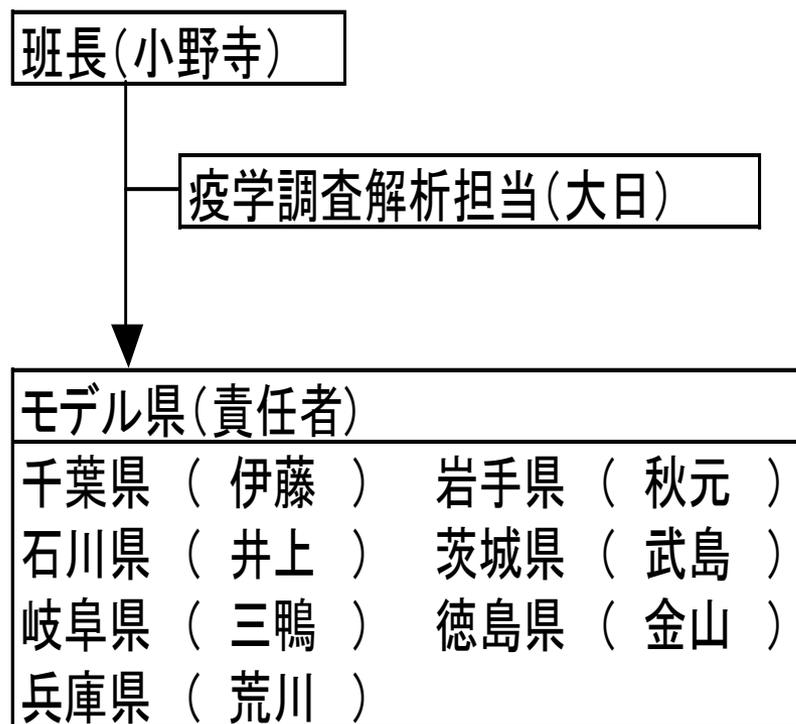


	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
—— 総報告数	125	132	196	198	215	172
---■--- 無症候	58	64	88	88	120	89
—●— 早期顕症Ⅰ期	26	19	33	25	22	12
—○— 早期顕症Ⅱ期	33	43	55	73	61	64
---*--- 晩期顕症	7	6	12	8	10	5
—▲— 先天梅毒	2	0	8	4	2	2

性感染症全数調査の解析

- 各県別・7県合計
- 梅毒、定点把握4疾患、その他疾患
- 年齢分布を発生動向調査と比較
- その統計的検定
- 医療機関毎の報告数分布（定点と非定点の比較）

性感染症全数調査の流れ



モデル県における性感染症全数調査 の概要

調査期間

2006年、2007年：11月1日-11月30日、2008年、2009年、
2010年：9月1日-9月30日

調査項目

- ・基礎情報：診療科名、所在地
- ・対象疾患：5種の性感染症（梅毒、淋菌感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ、性器クラミジア感染症）
- ・患者情報：居住地（市郡のみ）、年齢、性別、配偶者の有無、職業、感染時期、感染源、感染した地域（市郡名のみ）、病名（記号にて）
初診日

調査方法

郵送法

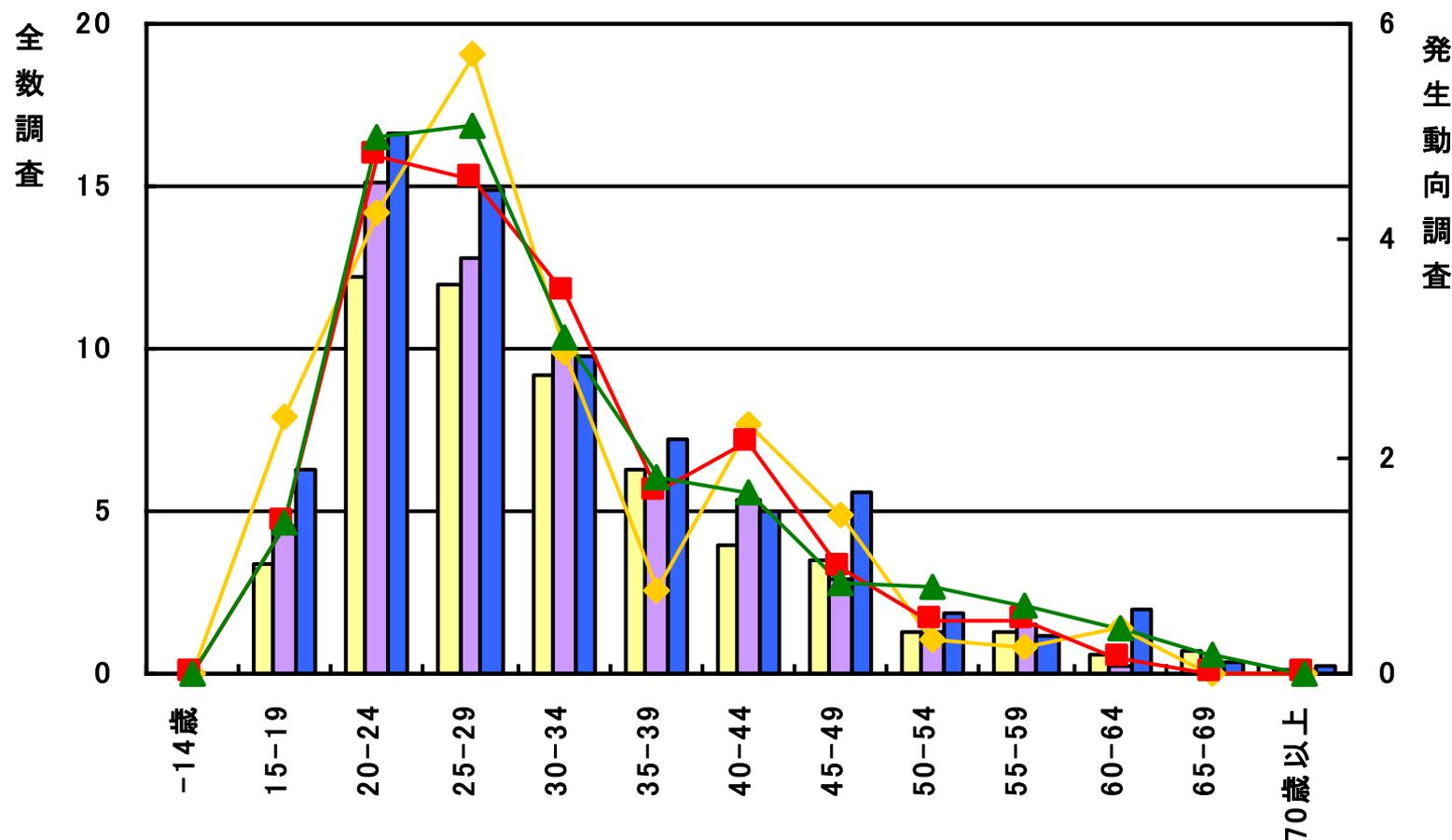
7モデル県における 性感染症全数調査

対象：岩手県、茨城県、千葉県、
石川県、岐阜県、兵庫県、徳島県

平成19年度～平成21年度の
まとめ

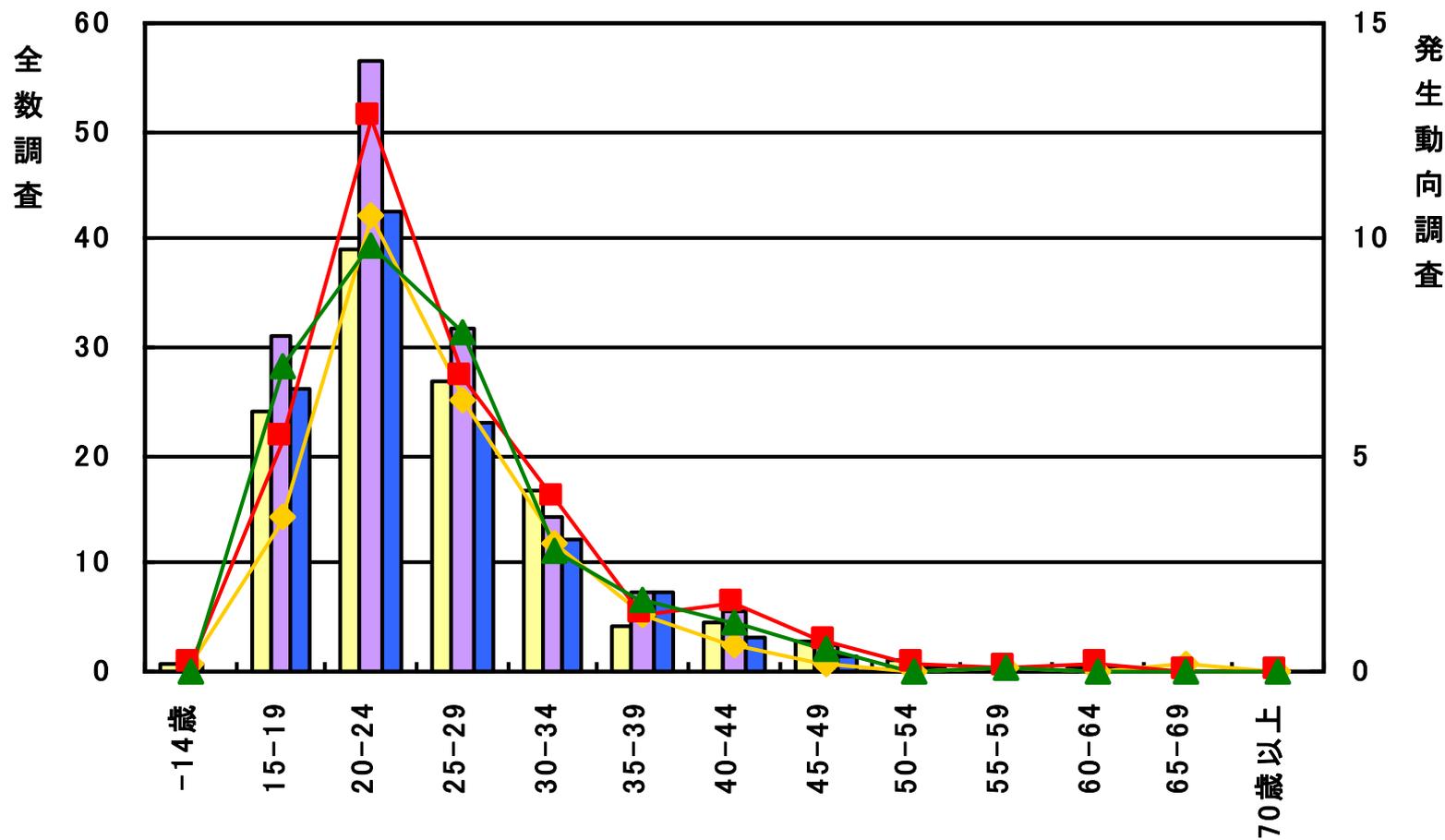
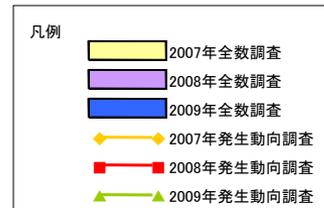
性器クラミジア感染症 (発症者)(男)

※7県 計
※人口10万人あたり



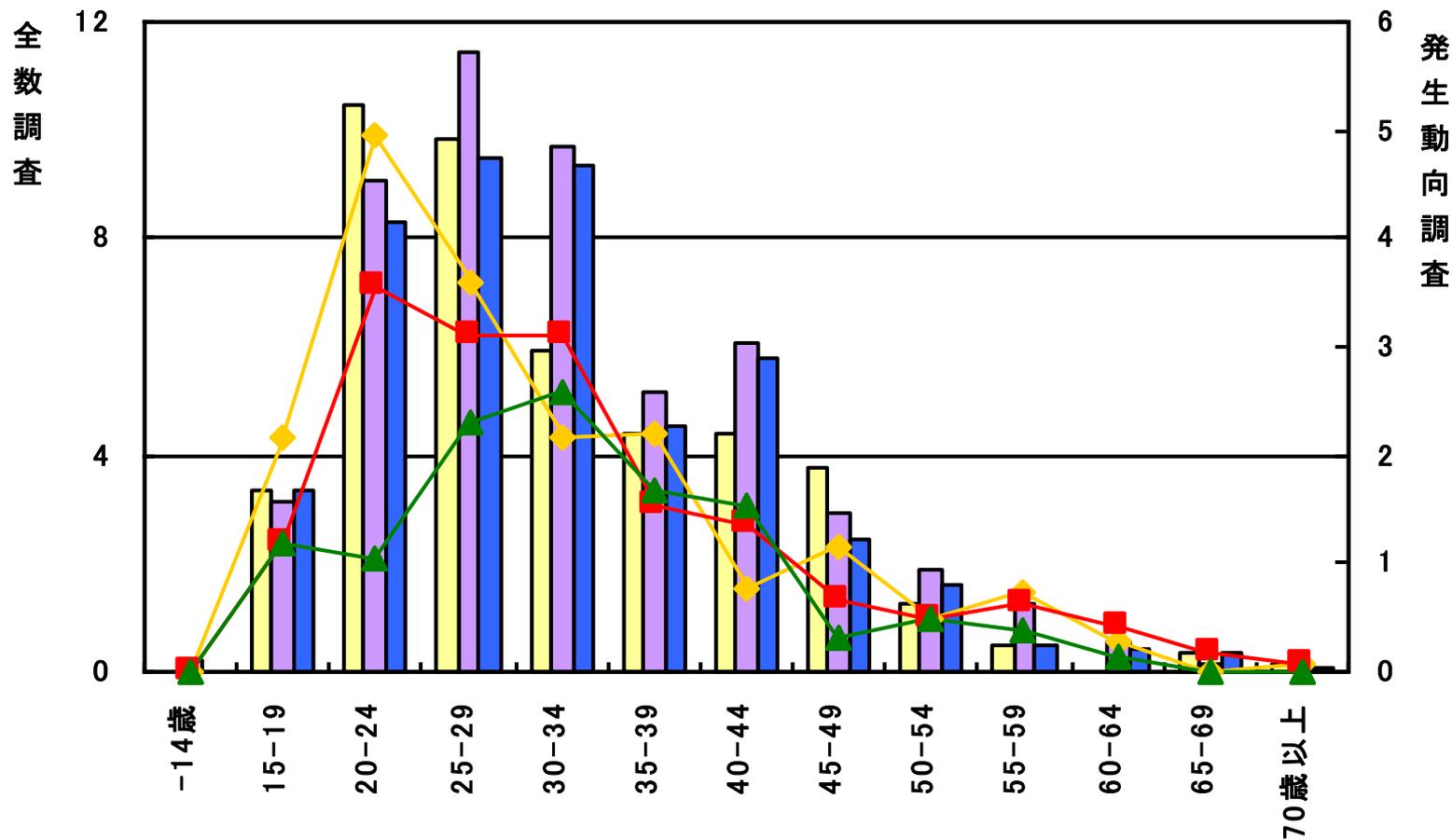
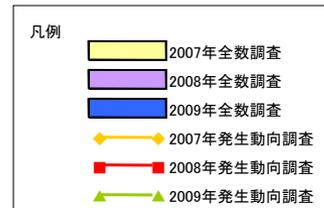
性器クラミジア感染症 (発症者)(女)

※7県 計
※人口10万人あたり



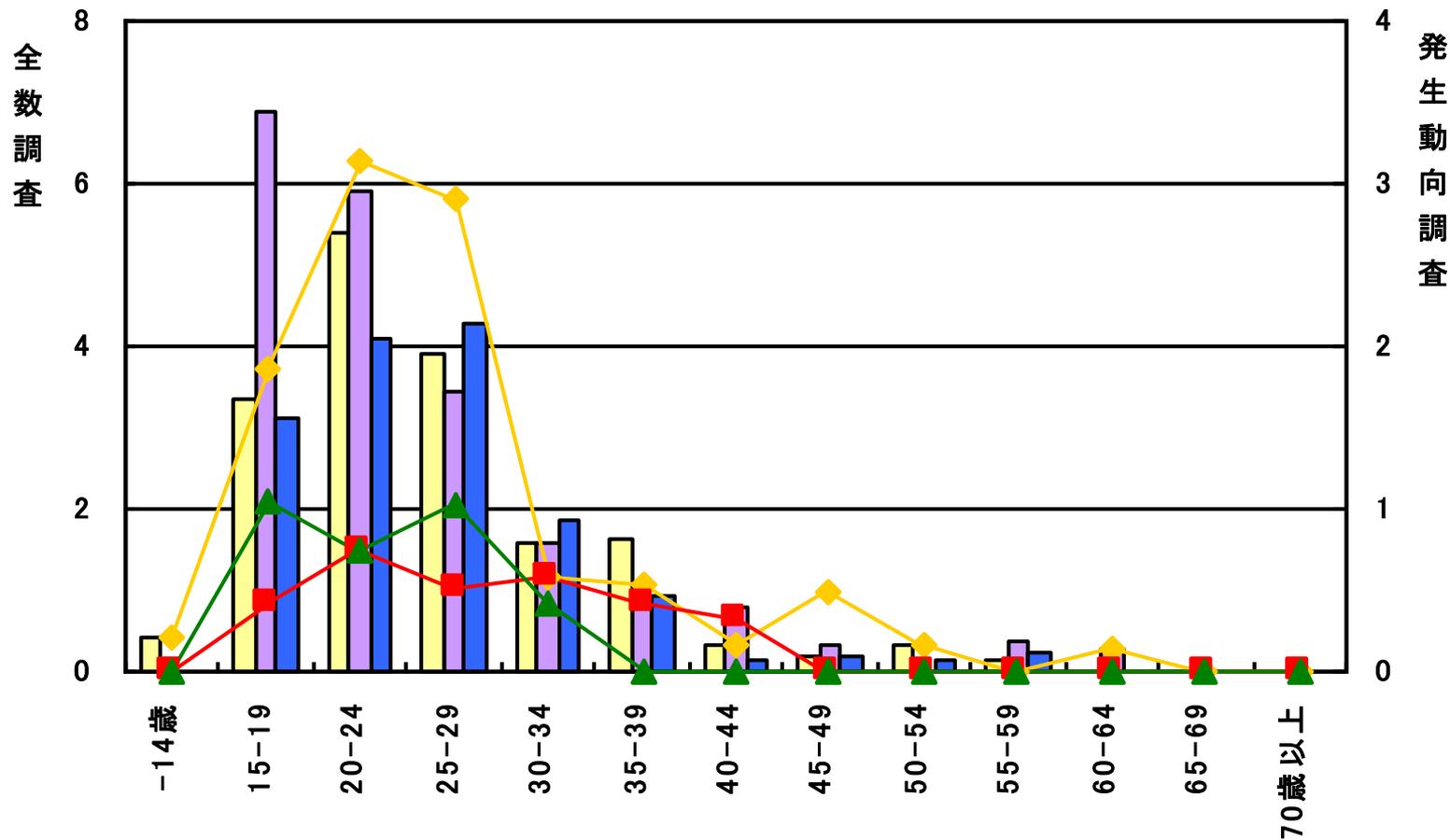
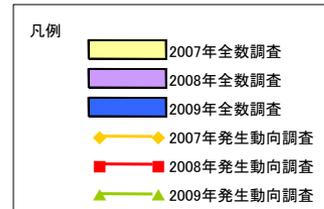
淋菌感染症(男)

※7県 計
※人口10万人あたり



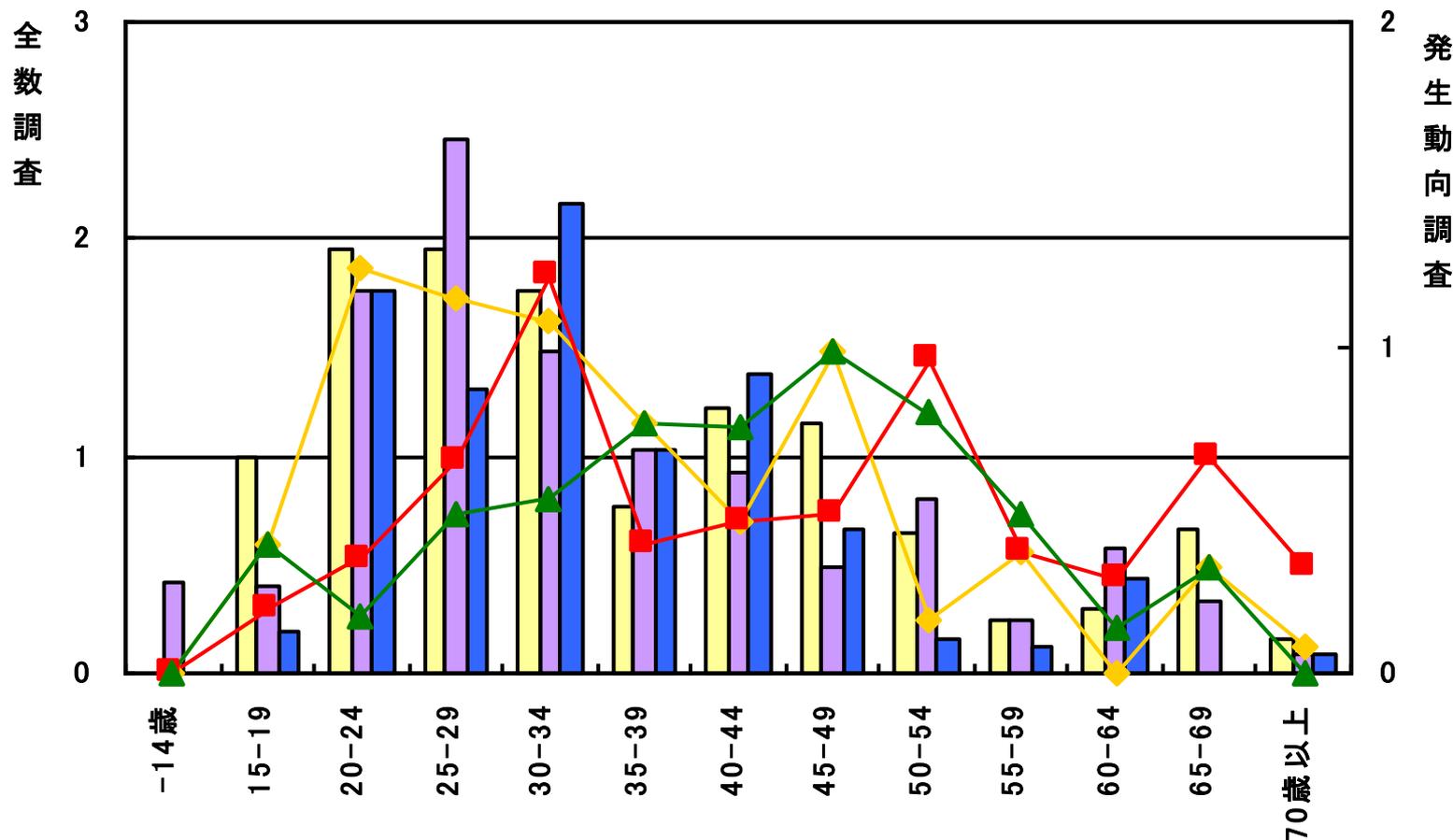
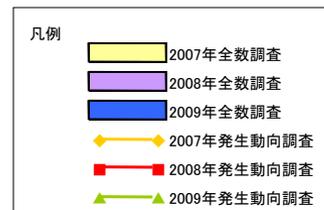
淋菌感染症(女)

※7県 計
 ※人口10万人あたり



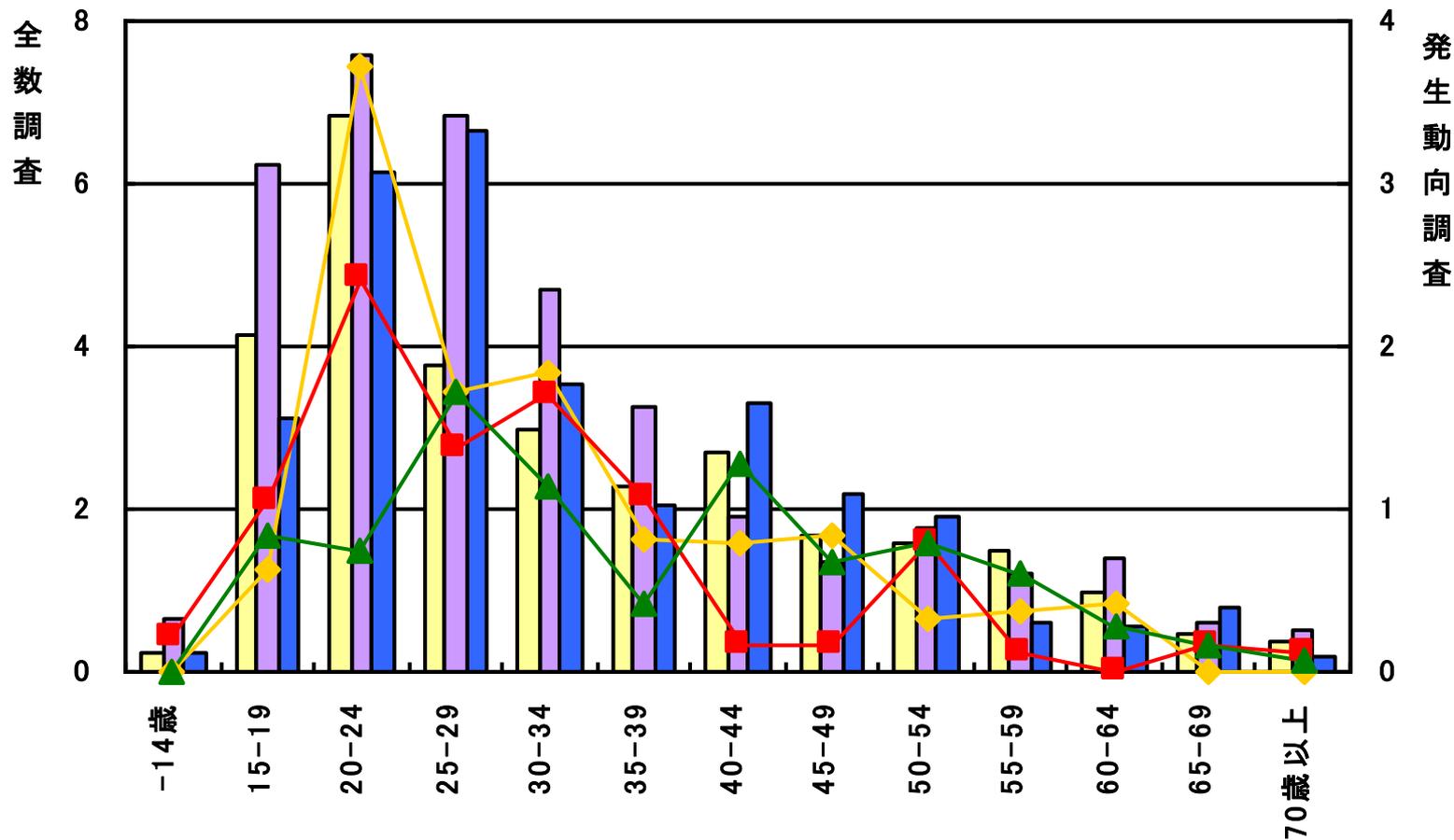
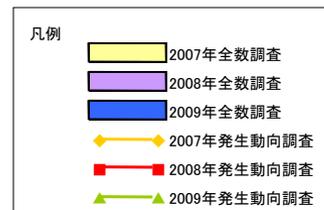
性器ヘルペスウイルス感染症 (初発あるいは初感染)(男)

※7県 計
※人口10万人あたり



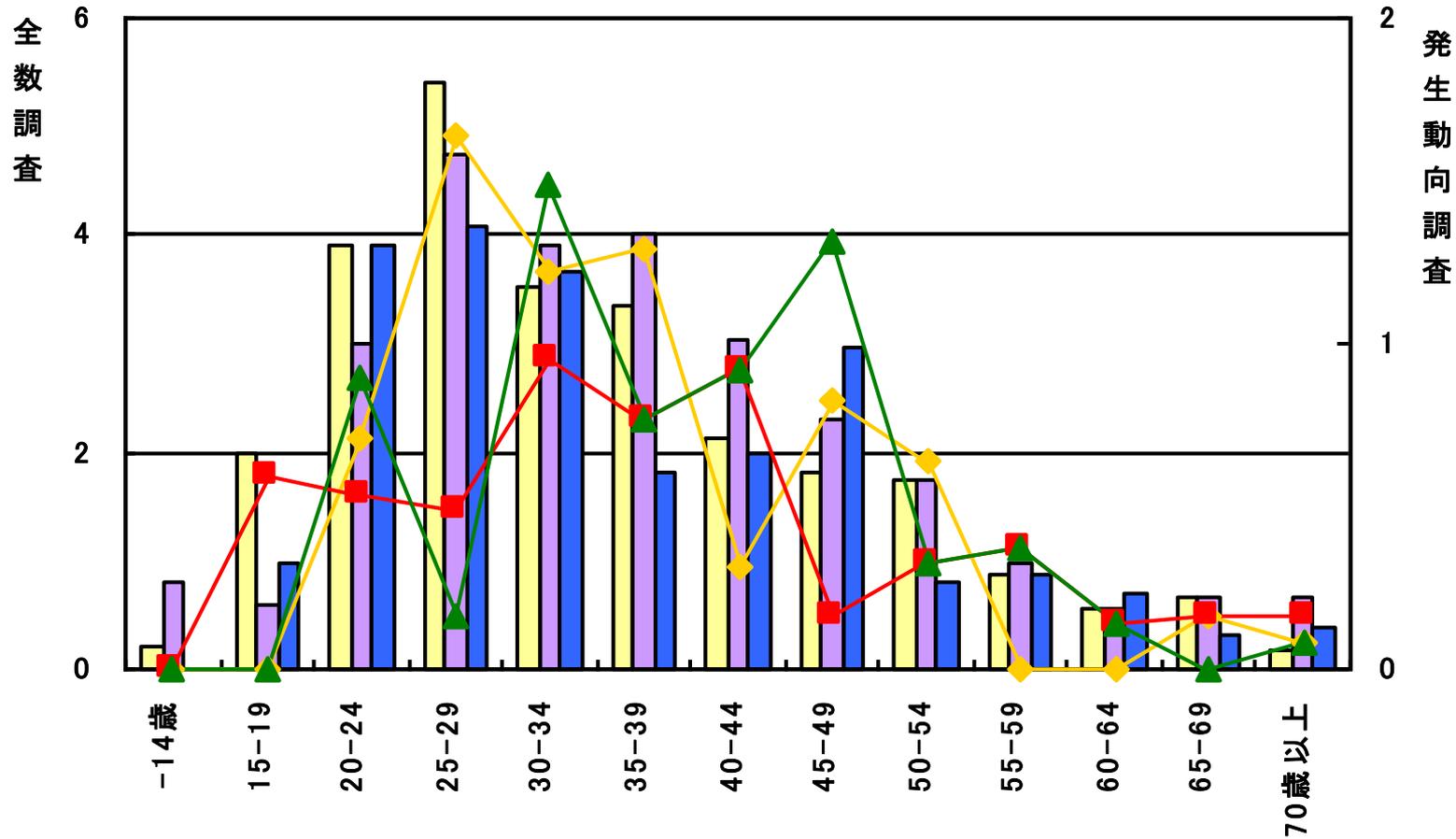
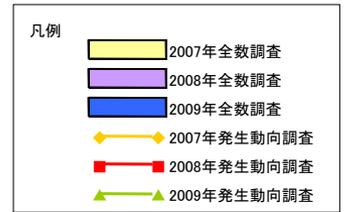
性器ヘルペスウイルス感染症 (初発あるいは初感染)(女)

※7県 計
※人口10万人あたり



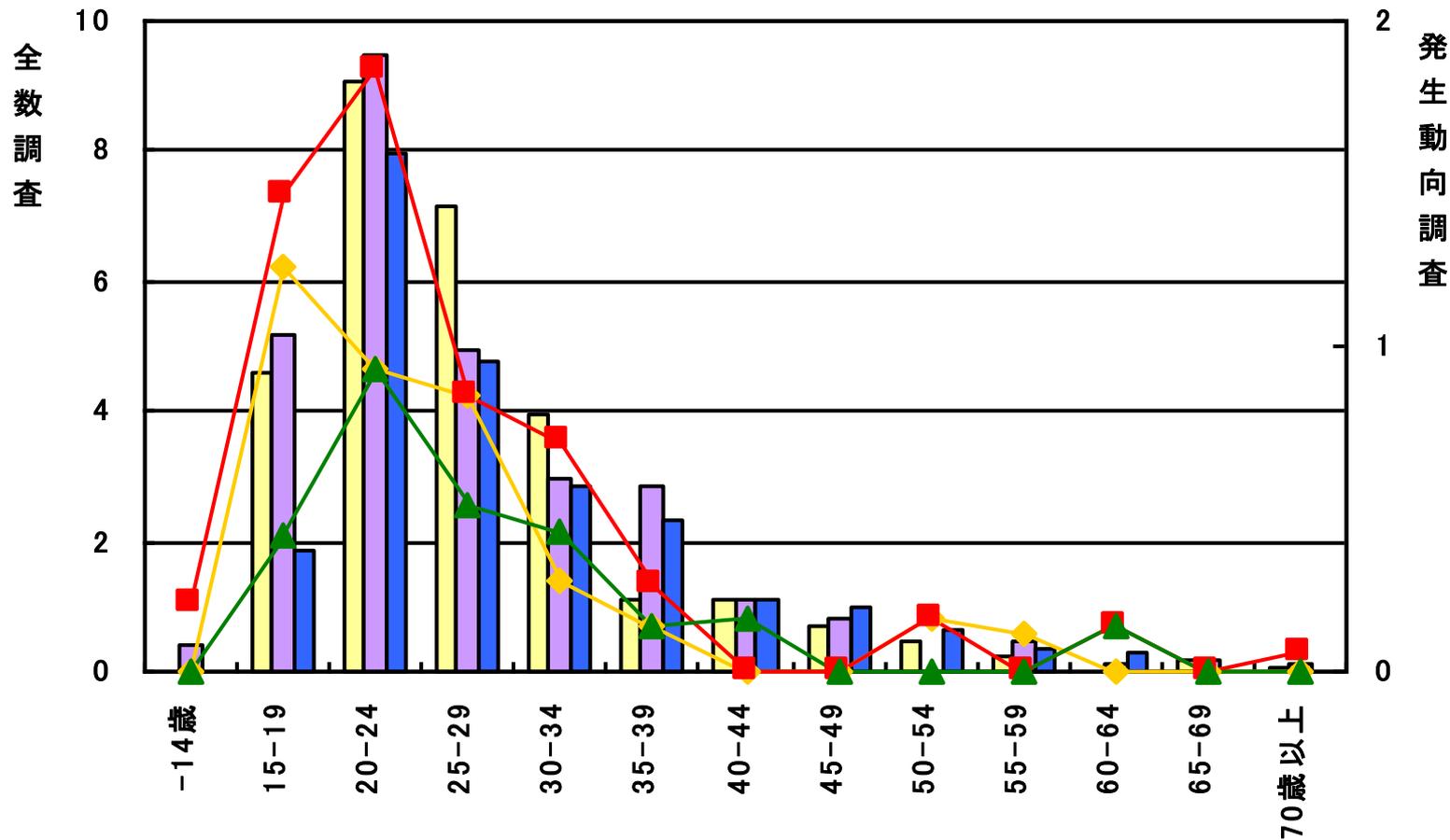
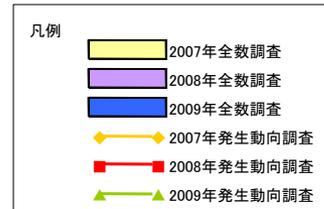
尖圭コンジローマ(男)

※7県 計
※人口10万人あたり



尖圭コンジローマ(女)

※7県 計
 ※人口10万人あたり

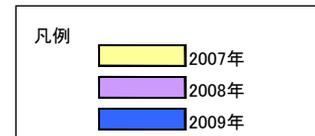


3年間継続的に報告した医療 機関のみでの結果報告

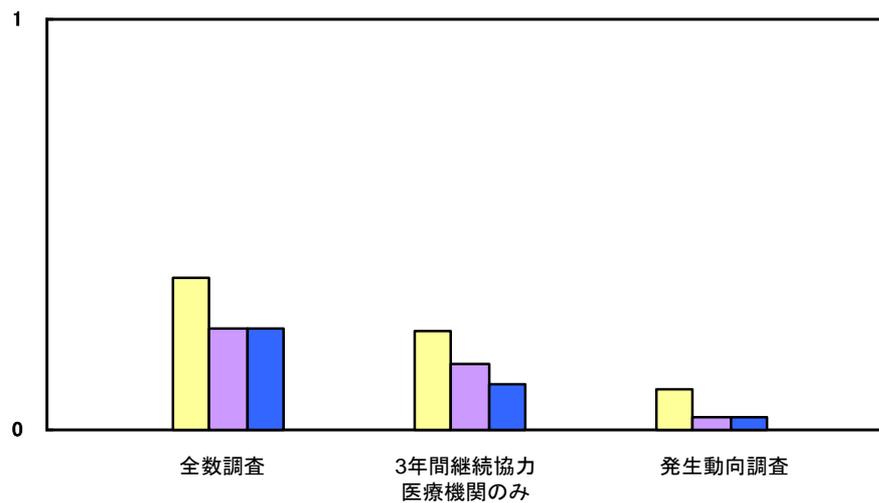
国立感染症研究所
感染症情報センター
大日康史

小野寺班 2009/7/10

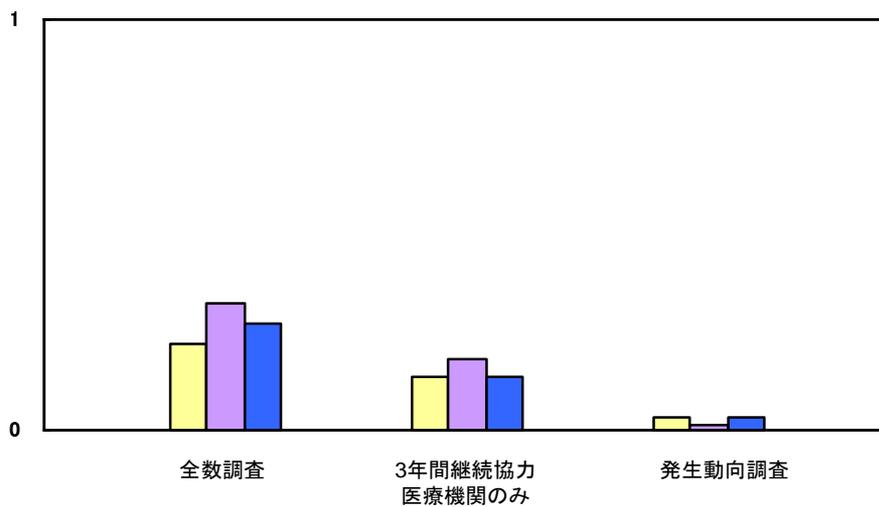
7県計



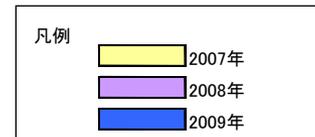
梅毒(男)



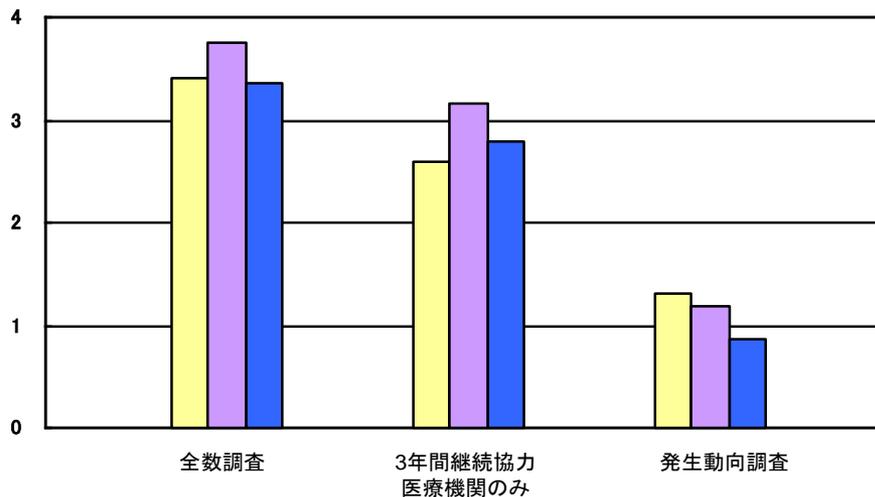
梅毒(女)



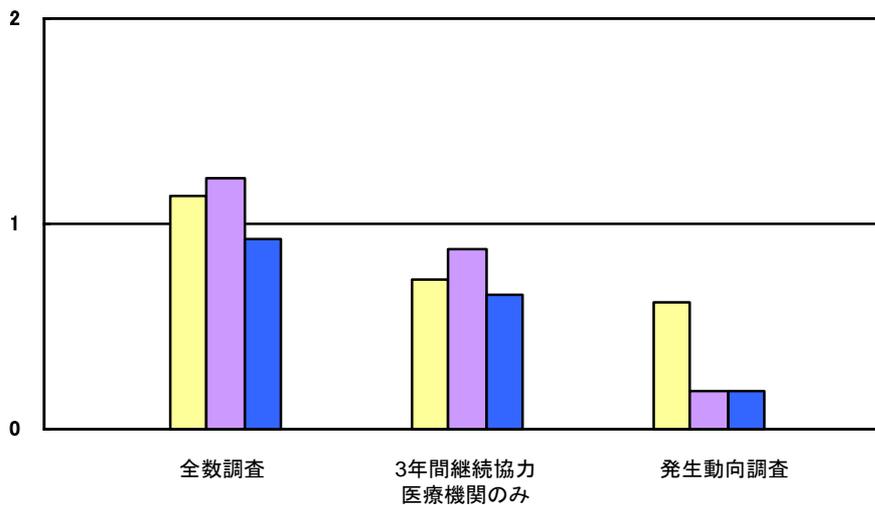
7県計



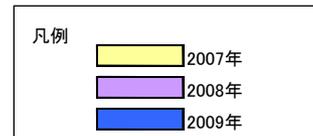
淋菌感染症(男)



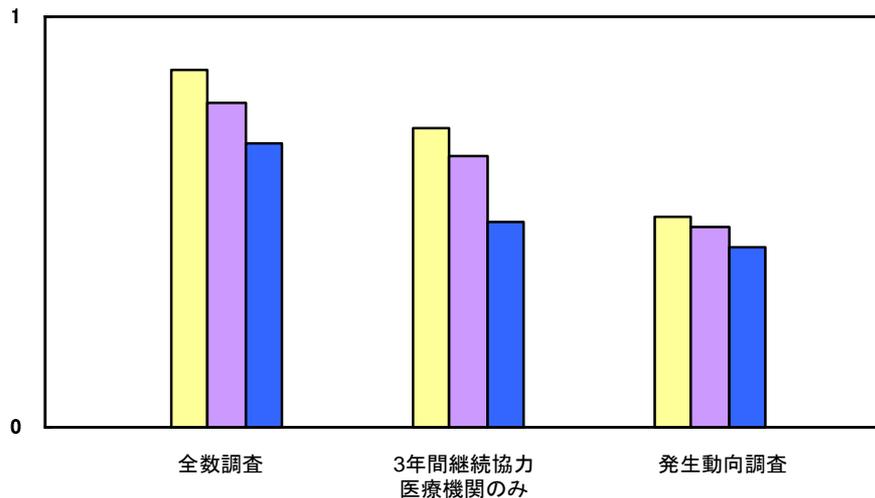
淋菌感染症(女)



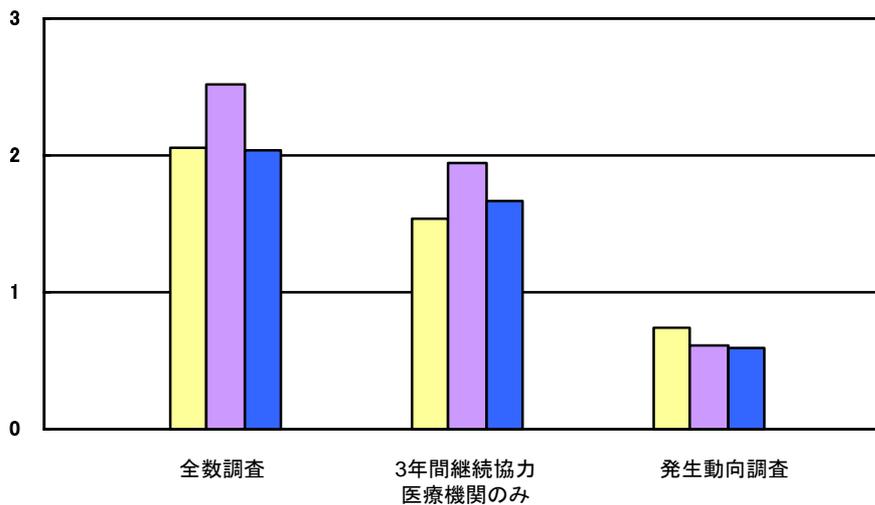
7県計



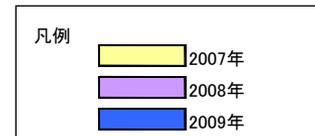
性器ヘルペスウイルス感染症(男)



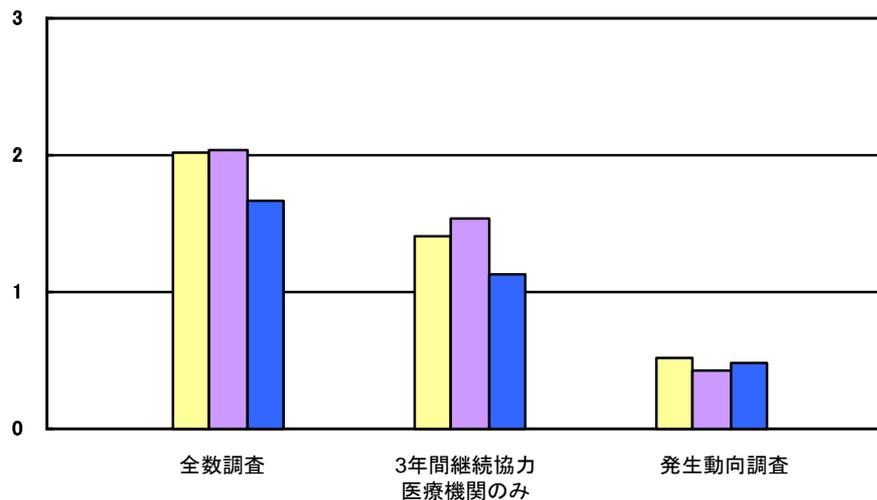
性器ヘルペスウイルス感染症(女)



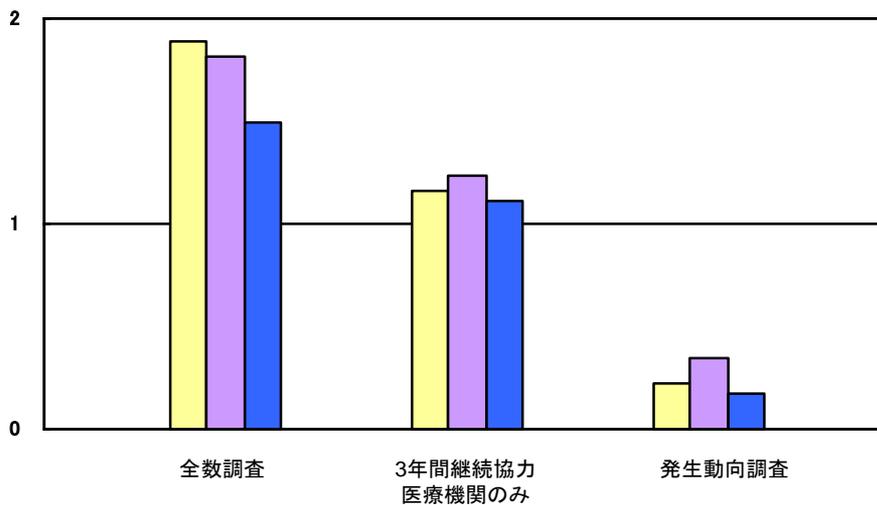
7県計



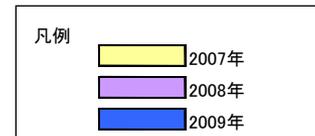
尖圭コンジローマ (男)



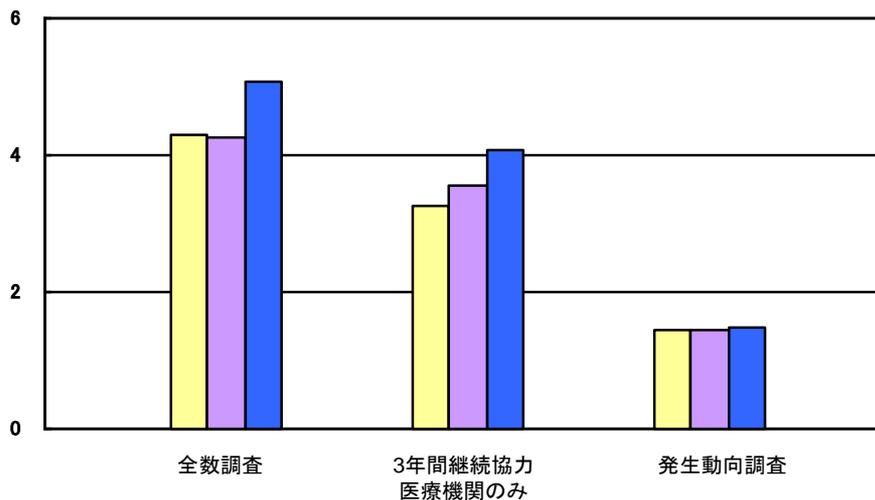
尖圭コンジローマ (女)



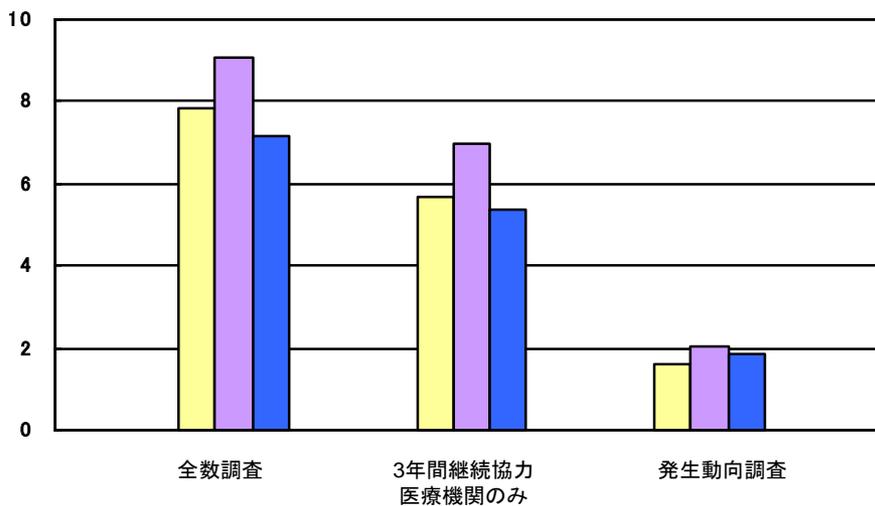
7県計



性器クラミジア感染症(男)



性器クラミジア感染症(女)



7モデル県における性感染症サーベイランスのまとめ

- ◆性感染症の発生動向調査と全数調査は全体として大きな乖離はなかった。
- ◆発生動向調査、全数調査とも減少していたのは、男性の性器ヘルペス、女性の淋菌感染症、尖圭コンジローマなどであった。
- ◆一方、男性の性器クラミジア感染症では、全数調査で増加傾向が認められた。
- ◆全数調査による性感染症の動向は各県により異なる傾向がみられたが、報告数の多い県の動向が全体の動向として示される傾向がみられた。

わが国における無症候性器クラ ミジア感染者の現状

対象と方法

① クラミジア自己検査(郵送)/性行動アンケート

15～25歳の無症状者を検査対象とする

chlamydia trachomatis PCR検出の自己検査キットを使用

キット配布 : イベント・学園祭・学校常設・保健所常設

配布地区 : 関東(東京、神奈川等)、神戸、岡山

② 検査コーディネーター養成

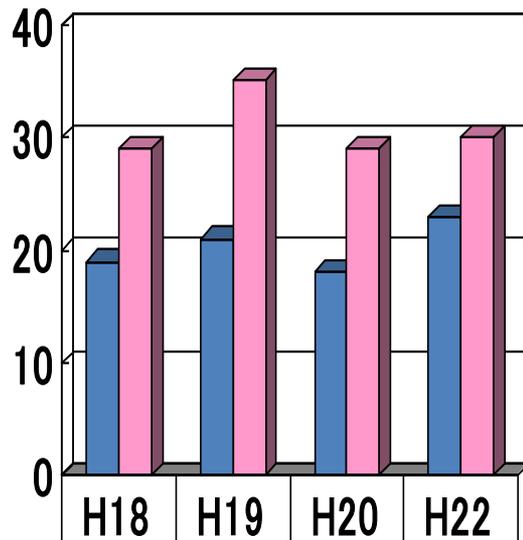
大学生や社会人等でボランティア活動に関心のある若者を募集

- ・ ユースによるピア活動として検査キット配布と検査勧奨
- ・ 検査コーディネーターマニュアル「虎の巻」作成

イベントにおけるクラミジアスクリーニング 検査キット回収率および陽性率の変化

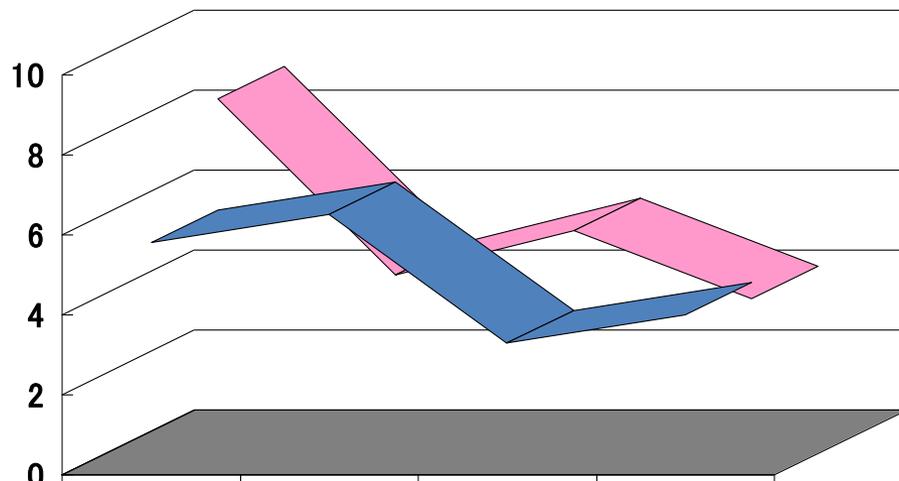
H18～20年、22年男女別 結果

キット回収率(%) = 返信数/配布数



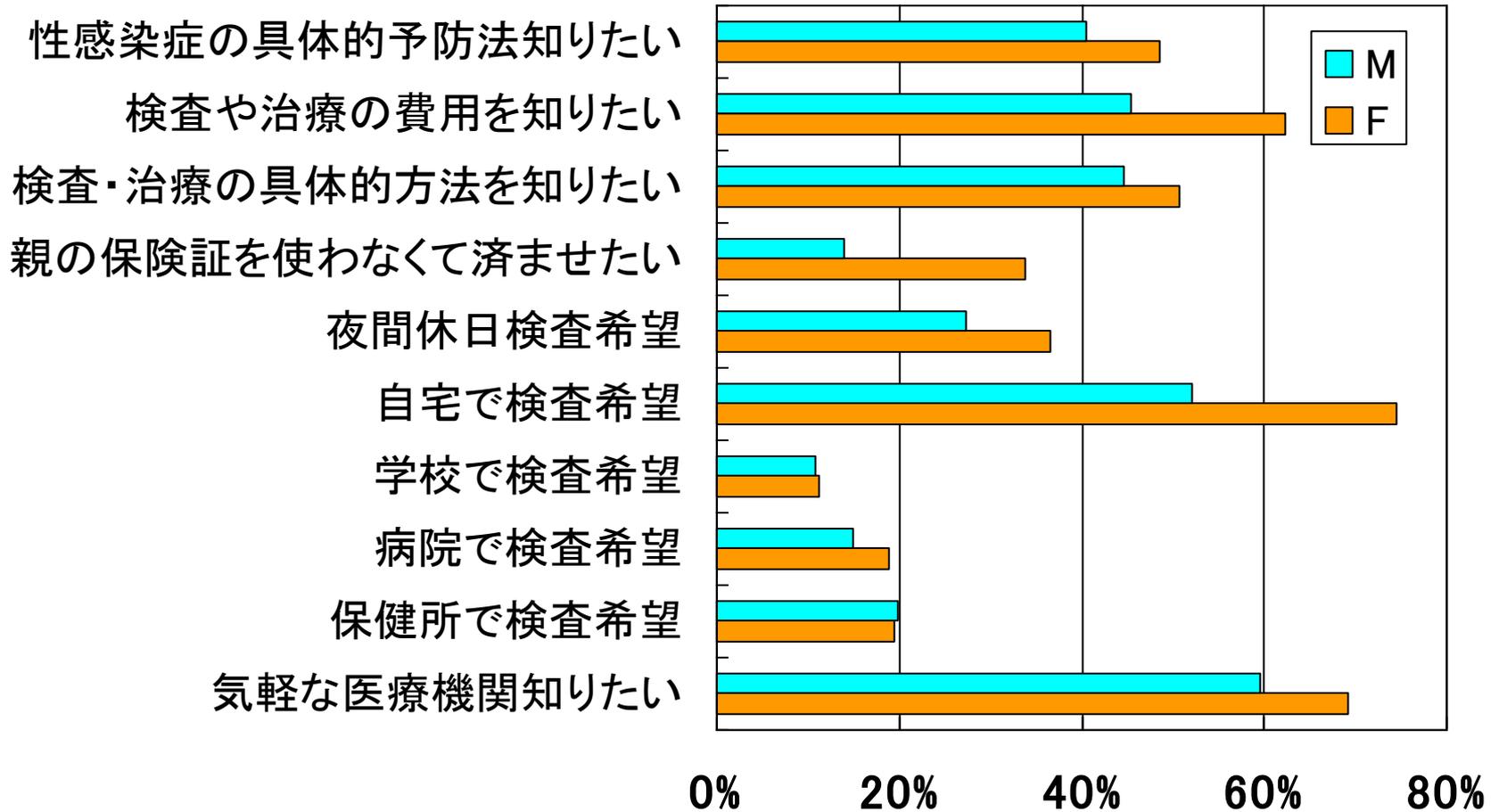
■ male	19	21	18	23
■ female	29	35	29	30

検査陽性率(%) = 陽性数/返信数



■ male	5.8	6.5	3.3	4.0
■ female	8.6	4.2	5.3	3.6

性感染症の検査や治療に望むこと



考察および結論

1. 検査コーディネーター養成は、NGOや行政の協力により、若年者が自主的に自己検査勧奨の事業運営につながる。ピアエデュケーションは、同世代の課題に気づき、解決に取り組むきっかけになる。
2. イベントでの自己検査キット配布は、返信率が3割程度であるが、無症状での感染の有無を知る機会となる。ただし、参加者は大学生以上が多く、高校生以下には普及しにくい方法である。
3. 保健所への「虎の巻」配布により、保健所は性感染症予防指針の推進における当班の研究事業に関心を持ったが、新たな事業展開は、予算や事業の優先度から難しい。アンケート回答率が4割(5年前の調査では6割)であることから、むしろ対策の後退も懸念される。
4. 自己検査による性感染症の早期発見、早期治療につなげる具体的な対策について、若年者のニーズをとらえることができたが、確実に医療へつなげる体制作りには、課題が残った。
5. 性感染症対策は、啓発や情報提供のみならず、検査から受診まで行政がNGOや医療機関と円滑に連携する必要がある。

わが国における性感染症の現状

- 定点調査では性器クラミジア感染症、淋菌感染症は男女とも2003年以降若年層で減少傾向がみられ、近年はヘルペス、コンジローマも減少傾向である。
- 若年層の男女における無症候の性器クラミジア陽性率は女子で3.6～8.6%、男子で3.3～6.5%で、やはり減少傾向がみられている。
- 定点調査と全数調査で全体としては大きな乖離はみられないが、定点の設定は基準に基づいて行う必要がある。
- 今後も継続して定点調査を検証していく必要がある。

まとめ

- ◆ 定点調査と全数調査で年齢分布に大きな乖離はなかったが、男性の性器クラミジア感染症では全数調査で増加傾向が認められた。
- ◆ 性感染症定点の設定は統一した基準に基づいて行うべきである。
- ◆ 若者における無症候性性器クラミジア感染症は増加傾向はみられないが、検査から受診、治療に結び付けられるシステムの構築が必要である。